

カタルーニャ・クロッシング

カタルーニャと日本。人や企業、そして芸術、生活がクロスする現場を探ります。

第25回 ロサリア・アビラ・タピエスさん Rosalia Avila Tàpies

バルセロナ文化センター センター長 Centre Cultural Barcelona (CCB)

「京都で暮らして30年。 この地域に私だからできることをやりたい」



実からは想像もつかないでしょうね。

ロサリア その留学生たちのお買い物はすごかったですよ。家族や友人に頼まれたとって、たくさんブランド品を見せられました。私が「どうして？東京にもそのブランドあるでしょう」と聞くと「あるけどね。でもこっちで買った方が全然安いんだよ」という調子です(笑)。

そのニューヨークで一人の日本人と出会いました。ちなみにその彼が現在の夫です。私はニューヨークで日本と日本人を見つけたんです。当然のように日本で学びたいと考えるようになりました。大学最後の年には文部科学省の奨学金をもらえることになり、来日したのは1991年です。大

阪外国語大学で集中的に日本語を学んだ後、京都大学に進み文学博士(地理学専攻)を取得しました。研究テーマは「人口移動」と「マイノリティ・コミュニティの形成」です。人の移動が社会や文化にどのような変化をもたらすのに関心があり、学びを続けています。

AMICS 初めて日本に来た時の印象はどうでしたか。

ロサリア 日本人はアメリカが好きなんだという印象を強く持ちました。意外だったんです。スペインはイタリア、フランスとは戦争を含めいろいろな歴史がありますが、アメリカはそれほど距離は近くなかった。日本は直接アメリカと戦争をして広島・長崎もあったのに「どうして？」と驚きました。クリスマスはアメリカにいるみたい！でも楽しんでるのは日本人。

AMICS バルセロナで1990年代に学んだ知人がいうには「どうして日本人はそんなにアメリカ好きなの？」「なんでバイバイって挨拶するの？」とか友人から聞かれたそうです。彼女がいうにはスペインの学生ってジーンズは履くけど、それほどアメリカに好意を持ってはいなかったんじゃないかって。

さて、このセンターをつくっていきこうというアイデアはいつ頃？どのようにして？

ロサリア 甲南大学で教鞭を執っていましたが、子育てが忙しく

なり退職しました。子育てが一段落したらまた研究に戻りたいと思っていました。でもこれまでのような学術研究ではないんじゃないかな。私、もう30年も暮らして京都の街のことをよくわかっている。その経験の上に私の得意なこと、私しかできないことを活かす、そうやってこの地域社会に貢献したいと考えようになりました。うまくいかないじゃない？と家族は心配していましたが、応援を続けてくれるし、語学のネットワーク力は想像以上に役に立ちました。協力者やスタッフとの出会いに恵まれ、手応えを感じ取れるようになって来ています。

AMICS 京都にはこういった国際交流をテーマに据えたセンターはこちらだけですか？

ロサリア 京都ではバルセロナ文化センター的なものにはイタリア会館があります。かつてはそちらでスペイン語の講座もやっていましたね。多分スペイン語の先生は京都にあまりいなかったのがあったのだと思います。京都外国語大学、京都産業大学にスペイン語学科がありますのでネットワークとしては広がってきています。バルセロナ文化センターのマネージャーも京都産業大学スペイン語学科の卒業生です。



AMICS 生徒さんはどのような方になりますか。

ロサリア 高校生、大学生もいますがほとんどは社会人や引退されて時間がある方ですね。通訳資格試験対策やスペイン語圏への留学を目的にされる方もいますが、多くは知的関心や文化への興味から参加されているようです。芸術、建築、食文化、フラメンコやサッカー。若い時にバルセロナにいて、サグラダ・ファミリアはどうなったのかをまた見てみたいとか、最近ではカミーノ・デ・サンティアゴに興味を持たれる方も増えています。バルセロナで暮らした体験がある方は「自分と現地の友達はスペイン語で話しているのに、現地同士ではカタルーニャ語でしゃべっている。次はそこに入りたいんだ」というモチベーションの方、これはカタルーニャ独特のものだと思います。

AMICS となるといよいよ文化センターの出番ですね。

ロサリア そうなんです。最初は文化センターなので語学教室をやる予定ではありませんでした。お話ししたように私は歴史と地理が大好きです(笑)。でもオープンしてみると、ここに興味を持ってくれる方には言語を学びたいニーズもあるんだと気づきました。もう一つは観光情報的なサービス。これは両輪にしていく方がいいって。語学教室という点ではコロナを経てオンラインの要望も出てくるかと思いましたが、収束すると全くニーズが無いようです。やはりこの場所と空間、そこで過ごすリアル時間が好まれているのだとあらた



めて感じています。

AMICS 京都という土地の強みは、どんなところでしょう？

ロサリア 京都とバルセロナは共通点が多いです。ともに豊かな歴史と文化を持ち、なによりも国際的な観光地です。人口はどちらも150万人規模ですし、今、オーバーツーリズムという地域生活とのバランスや文化保存という課題も抱えています。京都の錦の町内会長さんがセンターにいらして「来週、バルセロナに行くんですが、ボケリア市場から呼ばれているんです」と話されています。どちらもかつては市民生活の台所でしたが、いまは観光ビジネスに変化しています。こういった課題研究は、どちらもオーバーツーリズムに対応するモデルケースになりますし、このセンターの役割を見せたい領域だと思うんです。

AMICS 来月は「サン・ジョルディの日」(La Diada de Sant Jordi)ですね。

ロサリア 今年のサン・ジョルディのイベントは地元の大垣書店さんと協力して、イオンモール北大路で開催します。芥川賞作家の畠山丑雄さんによる講演とサイン会も実施するんです。畠山さんのお姉さんがセンターの生徒さんで、そういうつながりで実現しました。



【AMICSの眼】

京都駅から地下鉄烏丸線で15分、北大路で降りて2分のとても便利なアクセス。バルセロナに建築留学していた友人の日本人建築家が改装した建物は、吹き抜けから降り注ぐ光が気持ちの良い空間です。京都にいかれたらプライベート経営、民間のパワーで頑張る「カタルーニャ京都人」を応援しに立ち寄られることをオススメします。

(取材/文 原正彦)